



市民まちづくりフォーラム
～みんなのせんだい未来づくり2019～
報告書

令和元年 11 月

— 目次 —

1. 開催趣旨	2
2. イベント概要	2
3. プログラム・進行	3
4. 仙台市総合計画について	4
5. 市民まちづくりフォーラム テーマ一覧	5
・テーマ1 杜の都のみどりの育み、未来への継承	6
・テーマ2 脱炭素都市づくりの推進	8
・テーマ3 多文化共生社会の形成	10
・テーマ4 地域コミュニティの強化	12
・テーマ5 子育て支援	14
・テーマ6 学びの環境づくりによる生涯学習の推進	16
・テーマ7 働きやすい環境づくり	18
・テーマ8 活力と賑わいにあふれる都心づくり	20
6. 参加者アンケートより	22

1. 開催趣旨

仙台市が現在取り組んでいる施策の点検・評価や、新たな総合計画策定に向けた未来への取り組みの提案を、市民参画により実施することを目的として開催しました。

2. イベント概要

名称	市民まちづくりフォーラム～みんなのせんだい未来づくり 2019～
主催	仙台市まちづくり政策局政策企画課
日時	2019（令和元）年 10 月 14 日（月・祝） 13：00～16：30
場所	仙台国際センター展示棟展示室 1
参加者数	114 人（15 歳から 85 歳）
募集方法	無作為抽出の市民 6,000 人（16 歳以上）への参加案内のほか、市政だより、市ホームページ、市有施設等へ配架したチラシ等による

3. プログラム・進行

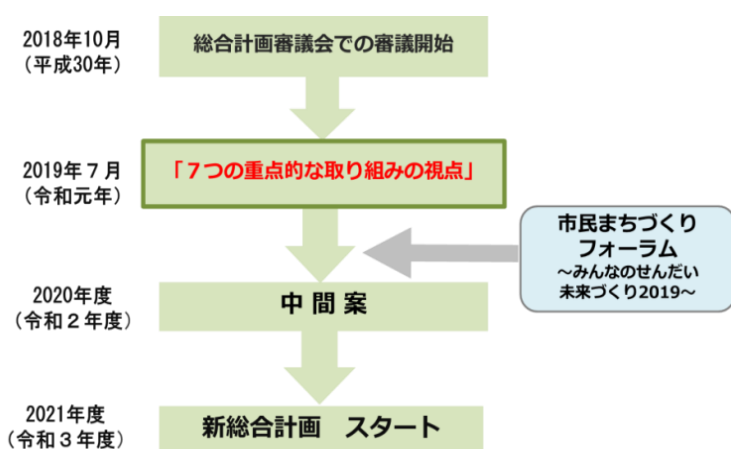
13 : 00~13 : 15	開会・オリエンテーション
13 : 15~13 : 35	各テーマの現状の取り組み説明 事業を担当する職員が、取り組み状況を説明
13 : 35~14 : 00	現状の取り組みについての話し合い 説明を聞いて、現状の取り組みの評価について話し合い
14 : 00~14 : 10	休憩
14 : 10~15 : 40	未来の取り組みについて話し合い 現状の取り組みを踏まえ、これからの取り組みの方向性や 具体案について話し合い
15 : 40~15 : 50	休憩
15 : 50~16 : 30	ふりかえり・まとめ
16 : 30	閉会

4. 仙台市総合計画について

「総合計画」とは、中長期的なまちづくりの指針です。

仙台市では、2011（平成 23）年 3 月に、21 世紀半ばに向けて目指すべき都市の姿を示す「基本構想」と、これを実現するための 10 か年計画である「基本計画」を策定しました。

さらに、おおむね 3 年で取り組む具体的な事業を「実施計画」として定めており、これらを総称して「総合計画」としています。



現在、仙台市では、新たな総合計画の策定を進めています。

10 か年の計画である「基本計画」が 2020（令和 2）年度に終期を迎えることや、社会経済情勢の変化もふまえ、21 世紀半ばを展望する都市像の見直しも行き、基本構想と基本計画を一体化して策定します。

2018（平成 30）年 10 月に総合計画審議会での審議を開始し、2019（令和元）年 7 月には、「審議経過」により、7 つの「重点的な取り組みの視点」が示されました。

今後、皆様からのご意見を取り入れながら審議を深め、2021（令和 3）年度からは新たな総合計画がスタートする予定です。

重点的な取り組みの視点

- 視点① 仙台を磨き伝える
- 視点② 仙台でともに生きる
- 視点③ 仙台で暮らす
- 視点④ 仙台で育つ
- 視点⑤ 仙台で学ぶ・活かす
- 視点⑥ 仙台で働く
- 視点⑦ 躍動する仙台を創る

5. 市民まちづくりフォーラム テーマ一覧

未来への取り組みについて提案をいただくため、総合計画審議会で示された7つの「重点的な取り組みの視点」に関連し、8つのテーマを設定しました。

参加者の方は興味のあるテーマを1つ選択し、ファシリテーターのもと、テーマごとにグループワークを行いました。

視点	テーマ	ファシリテーター	
		氏名	所属等
視点①	1 杜の都のみどりの育み、 未来への継承	いそわき ちもこ 磯脇 桃子	特定非営利活動法人 birth（バース） 協働コーディネート部長
	2 脱炭素都市づくりの推進	いたばし けいこ 板橋 恵子	株式会社エフエム仙台 防災・減災プロデューサー
視点②	3 多文化共生社会の形成	はま ともみ 浜 知美	ariTV（アリエティーヴィー）株式会社 副社長
視点③	4 地域コミュニティの強化	えんどう ち え 遠藤 智栄	地域社会デザイン・ラボ 代表
視点④	5 子育て支援	みうら み え こ 三浦 三恵子	特定非営利活動法人せんだい ファミリーサポート・ネットワーク 理事
視点⑤	6 学びの環境づくりによる 生涯学習の推進	いせ み ゆ き 伊勢 みゆき	特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク 代表理事
視点⑥	7 働きやすい環境づくり	いけたに まさゆき 池谷 昌之	株式会社アフターリクルーティング 代表取締役社長
視点⑦	8 活力と賑わいにあふれる 都心づくり	いわま ゆ き 岩間 友希	特定非営利活動法人 まちづくりスポット仙台 ディレクター

テーマ1

杜の都のみどりの育み、未来への継承

青葉山や定禅寺通のケヤキ並木などに象徴される「杜の都」。貴重な自然資産を未来へ受け継いでいくため、みどりに関する市民活動やコミュニティガーデンづくりなど、みどりの保全や創出に向けた取り組みを紹介し、今後の「杜の都」のあり方について話し合いました。

杜の都のみどりの育み、未来への継承

「緑の活動団体」の活動

保全活動 創出活動 普及活動

除雪作業 花の移植 自然観察会

道路緑化 花壇づくり 市民講座

杜の都のみどりの育み、未来への継承

みどりの創出（市民による緑化）

地域の緑化を支援・普及推進するための助成制度

- ・緑化木植栽助成
- ・花壇づくり助成
- ・花いっぱいまちづくり助成
- ・花苗あっせん

地域の首で行う活動!!

緑化木植栽助成で創出されたみどり 花壇づくり助成で創出されたみどり 花壇づくり助成で創出されたみどり

杜の都のみどりの育み、未来への継承

みどりの創出（市民による緑化）

民有地緑化を支援し、普及推進するための助成等の制度

- ・建築物緑化助成
- ・街かど緑化助成
- ・生垣づくり助成
- ・記念樹の交付

個人でできる活動!

建築物緑化助成で創出されたみどり 生垣づくり助成で創出されたみどり 記念樹の交付（戸塚等の緑化）

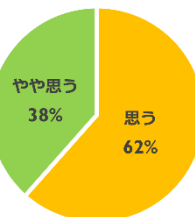
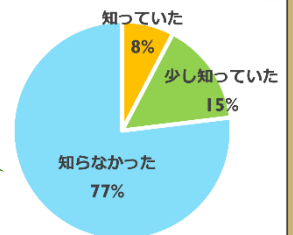
●現在の取り組みについて

- ・「街の緑を自分たちで創ることができる」と知らない方が多いのではと感じた。
- ・都心だけでなく、仙台全体が杜の都だというイメージが広がっていくと良いなと思いました。
- ・市民の暮らし、営みのなかにある「杜」こそ、仙台らしい杜になるのですね。
- ・植えるだけでなく、その後の手入れ、継続していく活動もとても大切だと思いました。
- ・仙台市が他の都市と比較してどれくらい緑があるのかが情報として必要。
- ・植木市、新緑祭などのイベントを、若い世代の人たちも楽しめる雰囲気になったら良いと思います。
- ・子どもと年配の方以外の大人がもっと関われる取り組みが必要だと思います。
- ・緑化計画・推進の助成制度や、「緑のイベント」についての情報をもっと広げるべき。
- ・生垣づくり助成は個人でもできる緑づくりで防災にもなる。記念樹の交付は思い出づくりに良い。
- ・「杜の都」を未来にも継承していくためにも、現在行っている取り組みの知名度をもっと上げるべき。



仙台市がこの事業を進めていることについて、ご存じでしたか？

※知っていた、少し知っていた、知らなかったの3つから1つを選択



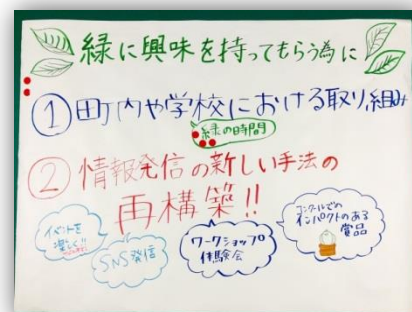
この事業は、私たちのくらしや仙台の活力に貢献したと思いますか？

※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 13名

● 未来への提案

- 今後の「杜の都」のあり方の大きな方向性として、多様な主体の連携による「日本一緑豊かな杜の都仙台」の形成、緑について多くの人に興味を持ってもらうための仕組みづくりの2つが挙げられました。
- 具体的な提案として、次のような意見がありました。
 - ・仙台に住む100万人が「仙台の緑はすごいよね」と誇れるような、緑あふれる都市、自他共に認める杜の都への成長を目指す。
 - ・行政、町内会、地域の商店街、学校、事業法人など、緑のまちづくり活動に関わるたくさんのプレイヤーが、情報共有できるようなプラットフォームをつくり、相互に連携しながら活動を支援する。
 - ・多くの方々がより緑に興味を持てるよう、地域や学校における取り組みとして、緑のワークショップや体験などの時間を設ける。
 - ・情報発信の手法の再構築として、緑にまだ興味がない方に焦点を当て、楽しいイベントやSNS発信、ワークショップ体験会、コンクール等でインパクトのある取り組みを行う。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



特定非営利活動法人
birth (バース)
協働コーディネート部長
磯脇 桃子 さん

これまで公園やみどりに関わりがなかった方々をいかに巻き込み、「杜の都」をより身近に、より誇りに想う機会をどう創出するか、について熱い議論を交わすことができました。

今、都市公園法等の改正に伴い、公園やみどりへの関わり方は、大きく変化しようとしています。仙台市にある西公園でも、市民が担い手となり、公園をどう魅力的に使いこなすかを考える社会実験が行われておりました。これからの「杜の都」づくりには、市民の皆さんをどう巻き込むかが、重要であり期待されると実感しました。

担当職員から

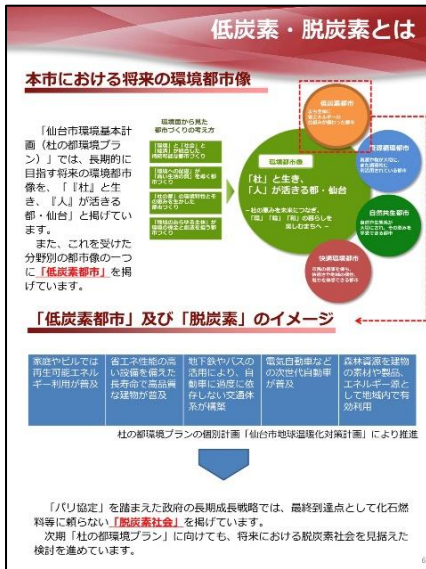
本市の代名詞である「杜の都」のみどりを発展させ、未来へ継承するため、多くの方にその価値に気づいて頂き、みどりに関する活動をしてもらいたいと考えております。

話し合いの中で、緑化助成制度や緑の地域活動への支援など、市民協働での緑の創出について評価をいただいた一方で、情報発信や普及啓発についてはより周知が必要なのがありました。

今後も、緑豊かな杜の都づくりに、多くの方に関わっていただけるよう取り組んでまいります。

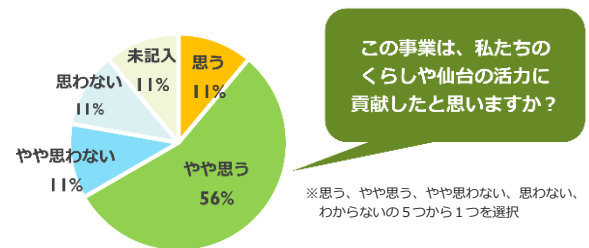
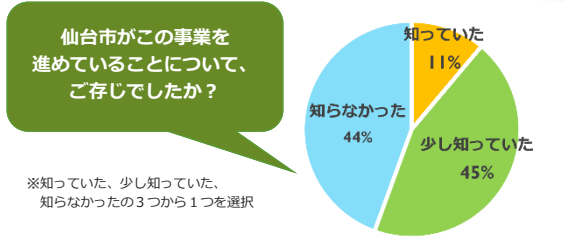
脱炭素都市づくりの推進

温室効果ガスによる地球温暖化は、本市の環境や市民生活にも深刻な影響を及ぼします。事業活動の温室効果ガスを計画的に削減していく制度の検討や、市民、事業者、行政等の協働による「せんだい E-Action」などの取り組みの事例を通して、今後の地球温暖化対策について話し合いました。



●現在の取り組みについて

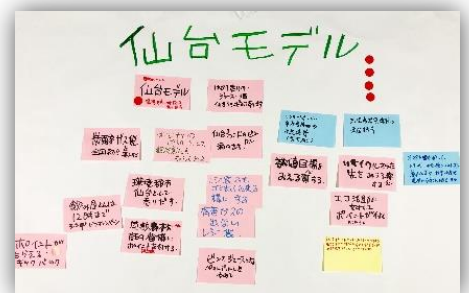
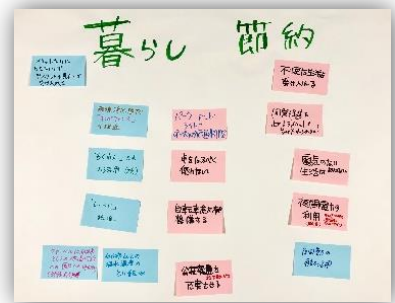
- 身近なメリットがあれば協力する人も増える可能性があるのではないか。
- プラごみをどのように再利用しているか周知されていないので、知りたい。
- やはり、市民一人一人が意識することが大事ではないかと思えます。
- ごみ分別がようやく市民に根付いたところだと思います。
- 一般家庭の断熱改修や自然熱エネルギー利用システムの導入について、初期費用やランニングコスト削減の具体例を示すと良い。
- 事業活動の温室効果ガス排出抑制について、事業者への助成などは考えているのか。
- バスや地下鉄の運賃が高く、公共交通機関の利用がしづらい。
- 事業評価ができるよう、削減目標に対する実績の見える化を進めてほしいです。
- もう少し、企業側と仙台市の取り組みについて知りたいです。
- 広報不足だと思います。



回答者数 9名

● 未来への提案

- 今後の地球温暖化対策について、「エネルギー」「暮らしと節約」「仙台モデル」という3つのキーワードが挙げられました。
- 具体的な提案として、次のような意見がありました。
 - ・蓄電技術の開発を促進するとともに、自分たちで蓄電したものをバッテリーにして、流通するような仕組みをつくる。
 - ・便利な生活のメリットだけを見ず、環境への影響を考え、不便な生活も受け入れる覚悟をしなければならない。
 - ・自動車の利用を抑制するために、公共交通機関の充実やパークアンドライドの活用、自転車道や歩道の整備を進める。
 - ・環境浄化植物や、^{しっくい}漆喰などの環境にやさしい素材の活用。
 - ・市民のエコ活動に対して、仙台市がポイントを付与する制度つくる。
 - ・ペットボトル削減のため、ヨーロッパで見られるジュースやお酒の量り売りの仕組みを取り入れ、仙台ブランドのビンを使って売り出す。
 - ・飲み屋は、深夜12時で閉店にするシンデレラキャンペーンを行う。
 - ・分別されたごみのリサイクル状況など、市が掲げる目標の進捗状況の数値化・見える化を進める。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



株式会社エフエム仙台
防災・減災プロデューサー

板橋 恵子 さん

台風19号の甚大な被害があった直後でもあり、巨大化する自然災害の要因である地球温暖化対策への関心が高く、熱心な話し合いが行われました。

環境税の一つ「炭素税」を全国に先駆けて導入する、家庭で蓄電したバッテリーの現金化の仕組みを作る等、環境に配慮する都市としての「仙台モデル」を作っては、という提案。また、暮らしの中のエコ活動にポイント付与といった、市民が取り組みやすい仕組みを作りたい等、このテーマの推進に意欲的な意見を聞くことができました。

担当職員から

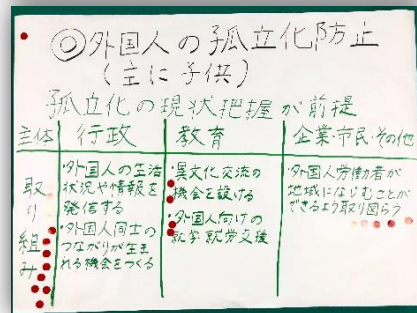
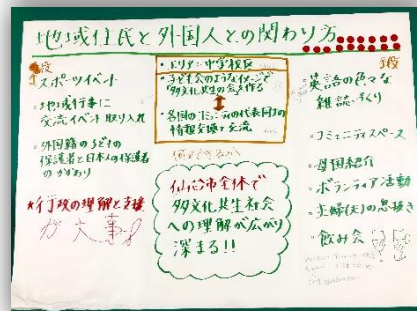
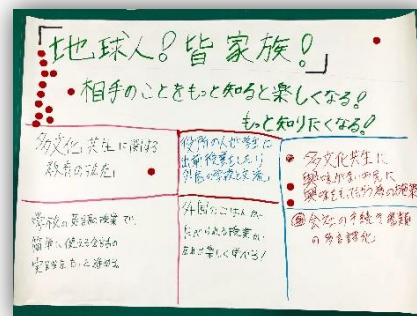
地球温暖化による気候変動や自然災害は喫緊の課題となっておりますが、参加された市民の皆様も非常に危機感を抱かれている様子でした。

脱炭素都市づくりの推進に向けては、関連施策に関する普及啓発の強化や、地球温暖化の一因となる温室効果ガスの排出削減効果の「見える化」などについて意見をいただいたほか、暮らしの中でできる節約や環境配慮について幅広く提案をいただきました。

今回いただいたご意見等を踏まえ、地球温暖化対策を一層進めてまいります。

● 未来への提案

- 今後の多文化共生社会のあり方について、大きな方向性としては、「外国人住民に対する日本人の理解促進」「地域住民と外国人住民との関わり方」「外国人住民の孤立の防止」の3つが挙げられました。
- 具体的な提案としては、次のような意見がありました。
 - ・外国人と実際に話せるように、教育現場で会話の実践形式の英語の授業を増やす。
 - ・多文化共生に興味を持ってもらうために多くのイベントを企画する。
 - ・会社や行政の手続きの書類は、まだ日本語のものが多くあるので、英語をはじめ、あらゆる言語に対応させていく。
 - ・中学校区くらいのエリアで、多文化共生の会をつくり、各国のコミュニティ代表と日本人の交流をする。
 - ・外国人住民の孤立化防止のために、外国人住民同士の情報共有や情報発信ができる仕組みづくりをする。
 - ・外国人向けの就学、就労支援を推進する。
 - ・外国人住民と日本人がスポーツやイベントなどで交流する機会をつくって、そこに町内会やNPOなどが入り多文化共生の理解を深める。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



ariTV (アリエーティーブ) 株式会社
副社長

浜 知美 さん

今回は、日本人の参加者が多くなりました。これから日本の社会でさらに必要になる多文化共生は、互いの理解や歩み寄りが大切になってくると思うのですが、皆さんが「自分事」として考えてくれていたのが、とても印象的でした。「こうなっていたらいい」ということにプラスして「誰がプレイヤーとなるか」まで考えてくれました。

個人、町内、学校、企業、市…様々な主体が協働でよりよい多文化共生社会を作っていくという話し合いに、仙台の明るい未来が想像できました。

担当職員から

外国人住民を含む様々な方々にご参加いただき、3つのテーブルそれぞれで活発な議論が交わされました。多様な背景をもつ方々との共生について、前向きな意見が多く出されていたことが印象的でした。

多文化共生や国際交流に関する取り組みをご紹介しましたが、一定の評価をいただいた一方で、より多くの方々に身近に感じていただけるよう、普及啓発の強化が求められていると感じました。

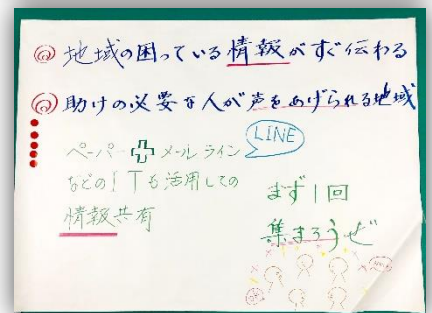
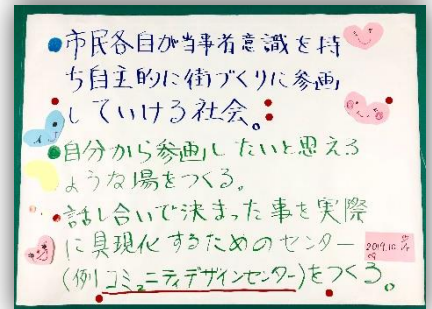
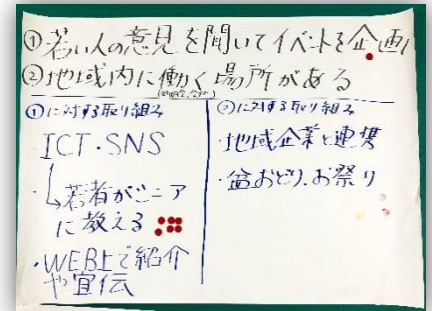
今回いただいたご意見を参考に、今後も取り組みを進めてまいります。

● 未来への提案

○地域コミュニティの強化に向け、30年後どのような地域であるべきかのビジョンについて話し合いました。大きな方向性としては、「市民による自主的なまちづくりへの参画」「若者が地域づくりに関わることのできる仕組みづくり」「助けの必要な人が声を上げやすい仕組みづくり」の3つが挙げられました。

○具体的な提案としては、次のような意見がありました。

- ・企業による地域活動への理解や、地域のお祭りなどへの参加を推進する。
- ・住む人だけでなく働く人も、高齢者や子育て世代だけでなく、若者も含めて多様な主体が地域に参画できるようにする。
- ・コミュニティデザインセンターといった、地域づくりのことを話し合い、実現に向けて活動できる場を設け、若者も含め地域への当事者意識を醸成する。
- ・SNSなどITも活用し、回覧板の省力化や地域情報のWebによる発信を進める。気軽に集まったり、助けを求める人が声を上げやすい仕組みを構築する。
- ・若者たちがシニアにSNSを教えるなど、世代間の交流も図る。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



地域社会デザイン・ラボ
代表

遠藤 智栄 さん

大学生から大先輩までの参加者が、「問題」と「目指したい未来」を熱く語ってくださいました。また「仙台の未来を考えると、若手世代と一緒に考えることができ良かった」とのコメントも多数あり、多世代での検討の重要性を実感しました。

参加者の皆さんがまとめた目指す姿を考えると「参画行動を応援する場づくり」「若手世代」「ICT活用」の視点を活かした取り組みや施策がさらに増えることを期待したいです。

担当職員から

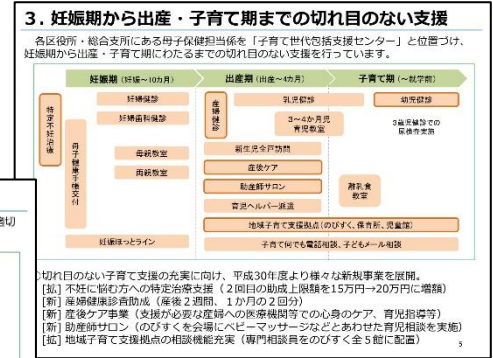
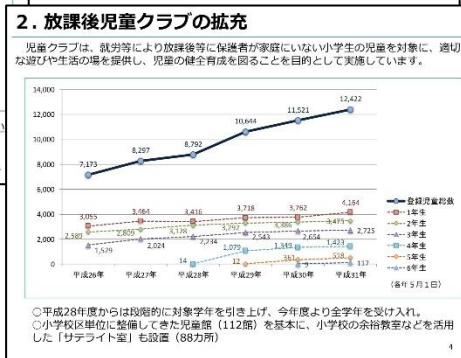
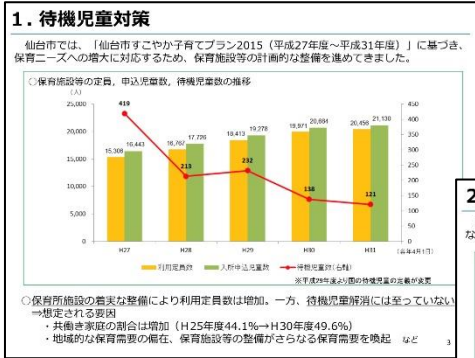
町内会の現役役員の方、地域活動にこれから関わってみたいと思っている学生の方など、様々な立場や年齢の方にご参加いただきました。

話し合いは楽しい雰囲気の中でも「地域で話し合う事が重要だ」「行政任せにしているだけでは駄目だ」など、熱い議論が交わされ、皆さんそれぞれが地域に対するご自身の想いを積極的に発信されていたのが印象的でした。

今回いただいたご意見を参考にしながら、これからも地域の皆様とともに、より良い地域コミュニティの形成に向けた取り組みを進めてまいります。

テーマ5 子育て支援

本市では、安心して子どもを産み育てることができる社会をめざし、子育て支援に取り組んできました。待機児童対策や放課後児童クラブに関する取り組みや、妊娠期から出産・子育て期までの切れ目のない支援について紹介し、今後の子育て支援の方向性について話し合いました。



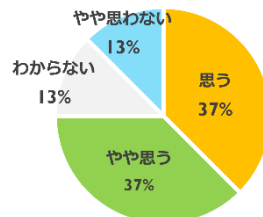
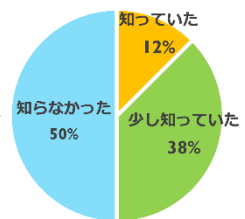
●現在の取り組みについて

- ・前よりは、だんだん良くなっていると思う。
- ・地域によって課題はバラバラなので、地域ごとの対策、対応が必要だと思う。
- ・事業主が理解を示す取り組み方も含めて考えていく必要があると感じた。
- ・子どもが遊べるような場所がほしいです。
- ・シングルマザー・シングルファザー向けの補助も施策に入れるべき。
- ・保護者の希望と保育所の場所等のマッチングが必要。
- ・保育士の待遇改善を考えてほしいと思います。
- ・仙台市は施設（図書館など）が少ないなど、少し遅れていることがわかった。
- ・産後ケアの拡大も視野に入れて施策すべき。
- ・お金のかからない切れ目のない子ども支援方を充実させてほしい。



仙台市がこの事業を進めていることについて、ご存じでしたか？

※知っていた、少し知っていた、知らなかったの3つから1つを選択



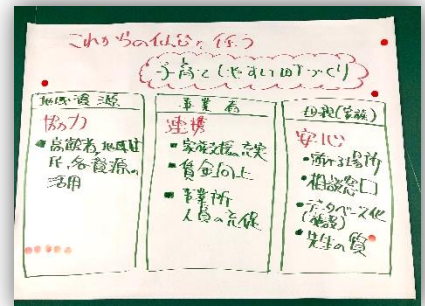
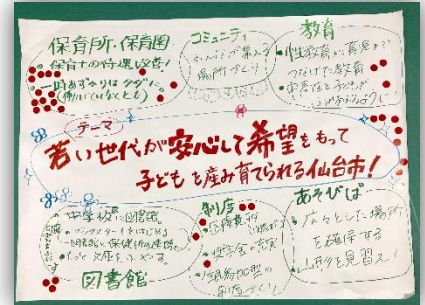
この事業は、私たちのくらしや仙台の活力に貢献したと思いますか？

※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 8名

● 未来への提案

- これからの子育て支援の方向性について、「これからの仙台を担う子育てのしやすいまちづくり」、「若い世代が安心して希望を持って子どもを産み育てられる仙台市！」の2つのテーマで提案をまとめました。
- 具体的な提案としては、次のような意見がありました。
 - ・みんなが集える場所・コミュニティをつくる、高齢者が見守りをするなど、地域全体で子育てをする。
 - ・住民参加型の子育てのまちづくり。
 - ・子どもが成長してから相談できる窓口の設置や、家族全体をケアできる専門員の配置。
 - ・子育て支援専門機関の体制強化。
 - ・保育園・幼稚園などの施設情報をデータベース化する。
 - ・子どもを安心して預けられるよう、保育士の待遇を改善し、保育園・幼稚園の質を向上させる。
 - ・中高生と子どもが触れ合う機会をつくるなど、育児に向けた教育を行う。
 - ・他自治体を参考に、広々とした遊び場を確保する。
 - ・預かり保育の無償化、18歳までの医療費無償化など、子育て支援の強化。
 - ・乳幼児に絵本をプレゼントする「ブックスタート」を図書館と保健所の連携ではじめる。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



特定非営利活動法人せんだい
ファミリーサポート・
ネットワーク 理事

三浦 三恵子 さん

高校生からご高齢の方まで幅広い年齢層の方にご参加いただき、活発な話し合いが行われました。

若い世代が子育てに希望が持てるような街、安心して子どもを産み育てられる街になるためにはどうすればいいのか、未来の仙台を考え様々なアイデアが出ました。

地域コミュニティの活用、安心できる場所や相談窓口、保育従事者の処遇改善など社会全体で考える必要性を強く感じました。

担当職員から

参加者の方が日頃からお感じになっていることをご紹介いただきながら、大変熱心に議論いただきました。

身近な地域での相談先、「保活」の大変さ、子どもの遊び場など、具体例を挙げながら仙台の子育て環境の課題について掘り下げ、今後の取り組みの方向性について貴重なご示唆をいただきました。

今回いただいたご意見、ご提言も参考にさせていただきながら、子育て支援のさらなる充実を図っていきたくと考えております。

テーマ6

学びの環境づくりによる生涯学習の推進

人生100年時代と言われる中、誰もが楽しく生きがいを充実しながら多様な学びを享受できる環境づくりが求められています。生涯学習に関する取り組みである、市立小学校に開設されている大人のための学習活動の場「社会学級」や、ミュージアムが専門分野を超えて連携し、新たな学びのプログラムを創出する「仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)」の紹介を通し、学びの環境づくりについて話し合いました。

生涯学習

今後5年間(平成29年度から令和3年度まで)の取り組み

4つの基本的方向(第2期仙台市教育振興基本計画)による)



ミッション1:
人和社会をつなぐ多様な学びの機会の充実

ミッション2:
多様な社会教育施設による多様な学びの充実

ミッション3:
学びの成果を生かし人と人がつながる仕組みづくり

ミッション4:
豊かな資源を活用した学びの提供・魅力の発信

社会学級

- 約70年の歴史を持つ制度(社会教育法(昭和24年施行)により開設)
- 小学校、特別支援学校に開設
- 大人のための学習活動の場
- その地区に住む成人であれば誰でも参加できる

仙台・宮城ミュージアムアライアンス

知的情報資源であるミュージアムが、情報技術を活用してネットワークを形成、各館が持つ知識や手法を集約し、単独館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズにあったミュージアムとなることを目的とする共同事業体

平成21年度スタート、今年で10周年

- 17館(令和元年6月現在)により構成
- 3つの柱に基づき取り組みを実施

参加館と運営体制



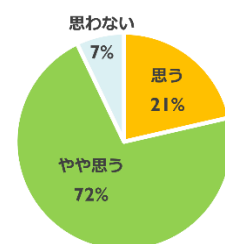
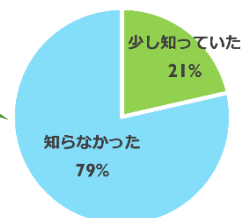
●現在の取り組みについて

- 社会学級は貴重な試みです。是非続けて欲しいです。
- 社会学級は、身近な地域コミュニティとして大切。
- 自分の興味を持ったことを、自由に学習できる場があるのはとても良いことだと思う。
- 「学ぼう」だけではテーマが広すぎるので、目的意識を持った人が集まる取り組みがあると良いと思う。
- SMMAの内容自体は仙台を知るきっかけになる良いものなので、もっとPRを行って認知度を上げることが必要だと思いました。
- たくさんある生涯教育関連機関との連携が良くない。県や大学の図書館とも連携するべき。
- SMMAは仙台だけでなく、宮城全体として考えていくことも必要かと思えます。
- ミュージアムにわざわざ足を運びたくなくなるような、インターネットでは得られない体験を。
- ホームページで気軽に見られる工夫をお願いしたい。
- 社会学級、SMMAの取り組みを初めて知ったので、今後は市民の一人として活動を心がけたい。
- 様々なテーマを設定し、幅広い年齢の方が参加しやすいスタイルが必要。



仙台市がこの事業を進めていることについて、ご存じでしたか？

※知っていた、少し知っていた、知らなかったの3つから1つを選択



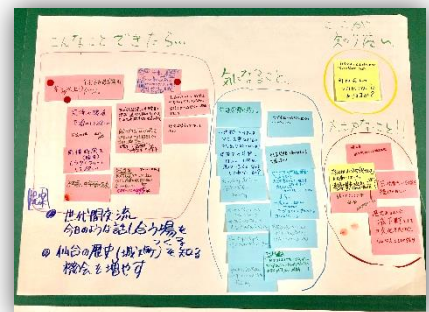
この事業は、私たちの暮らしや仙台の活気に貢献したと思いますか？

※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 14名

● 未来への提案

- 「そもそも生涯学習ってどういうこと？」という問いかけには、「人生を通じて学ぶ」、「自分を活かす学習である」などの意見が挙がりました。
- 意見として共通していたのが、このような世代間交流や、話し合いができる場をもっと作ってほしいということです。生涯学習をタテ軸にして世代をつなぎ、価値観が全く違うことを理解するということが大事だということでした。
- その他、より具体的な意見として、次のようなものがありました。
 - ・高校生が震災を知らない下の年代に、震災のことを伝える場をつくる。
 - ・LGBTのことを保護者や当事者の方がわかるような場をつくる。
 - ・仙台人として誇りを持つために、仙台という城下町の文化や歴史を知る。
 - ・外国人とダイレクトにつながりをもてるようにする。
 - ・大学や教員が積極的に市民と交流する。
 - ・SNSなどのオンラインを使ったバーチャル的な学習の場づくり。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



特定非営利活動法人
まなびのたねネットワーク
代表理事

伊勢 みゆき さん

10代から80代の方が、率直で活発な意見を出し合った場。「まさにこのような場が必要！生涯学習をタテ軸にして世代をつなぐ。継続的に続けて欲しい」という声が一番多かったです。

社会学級とSMMAの取り組みについては、どちらも素晴らしいという評価の一方、認知度が低く広報や周知の工夫と必要性が出ました。

世代での価値観の違いを認め合える対話の場をつくるのが、明るい未来を創ると強く感じました。

担当職員から

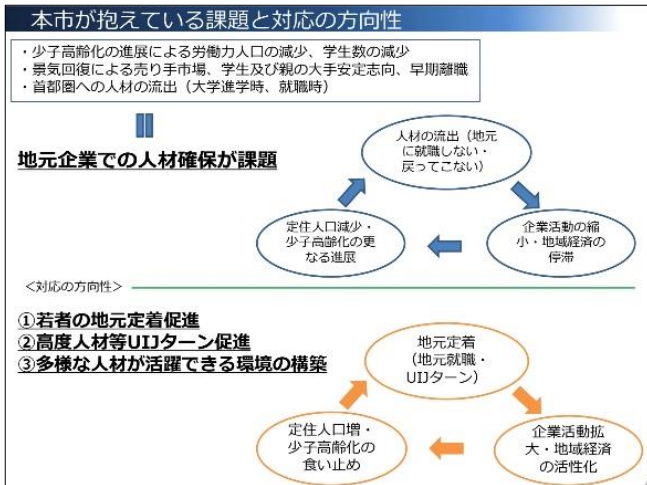
「仙台ならではの」重点事業さえ知られていない現状を実感し、情報発信が十分ではないとの指摘を参加者の方々からいただきました。

「生涯学習」のイメージが年代によりかなり異なり、若年層には対象外と捉えられていました。参加者からの「一生学び成長したい」との思いを絶やさず、学んだ成果を地域づくりへ生かしていくためには見直すべき点がまだまだあることに気付きました。

一方で、事業の価値を改めて実感もできましたので、今後の活動支援や情報発信につなげてまいります。

テーマ7 働きやすい環境づくり

生産年齢人口の減少、働く方のニーズの多様化といった変化の中で、さまざまな人材が活躍できる環境づくりが求められています。学生の地元定着やUIターン就職の促進、働く女性の活躍を推進するための取り組みを紹介し、仙台の働く環境づくりの方向性について話し合いました。



働く女性・企業向けの支援

① **企業における女性管理職候補育成**

企業の未来プロジェクト

- ・ 仙台・宮城・東北の企業を対象に、女性活躍推進の取り組みを具体的にレポートするプロジェクト。
- ・ 平成27年度より仙台市と(公財)せんだい男女共同参画財団が共同で下記の女性活躍を推進するコンテンツを提供。

コンテンツ

(i) 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」への参加

- ・ プロジェクト参加企業から推薦された女性1名を対象とした研修プログラム（平成30年度は24名が修了）
- ・ 職場のリーダーに求められるスキルを、全9日間のプログラムで学び、実践を重ねながら体系的に修得
- ・ 修了後も活用できる受講者同士の異業種ネットワークの形成
- ※平成27年度から平成30年度までの4年間で計91名の修了者を輩出

(ii) ハラスメント防止、ワークライフ・バランス推進などの社内研修への講師派遣

(iii) 働く女性対象セミナー等の優先的受講

(iv) 女性活躍推進に関する各種相談 など

② **女性役員候補育成**

(i) 「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」（女性管理職候補育成プログラム）の次のステップとして、地元中小企業のニーズに合わせた役員候補育成プログラムを開発中（平成29年度～）

- ✓ 企業における意思決定の場への女性参画を促進
- ✓ 多様な人材の活躍による地元企業の持続的成長を支援（中小企業における人材確保や事業承継等の課題解決への支援）

(ii) 内閣府令和元年度「女性役員育成研修」の仙台開催（9月～令和2年2月）に共催として参画

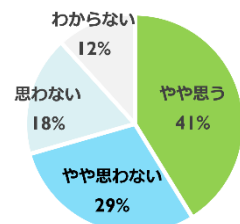
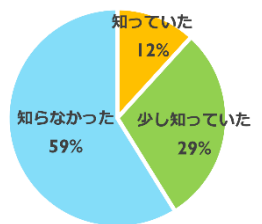
●現在の取り組みについて

- ・ 若者の東京圏への流出を本気で解決するには、挑戦的な施策が必要と感じた。
- ・ 仙台に人の流れを循環させる施策が必要だと思う。
- ・ 仙台で就職することに対する考え方・意見について、大学と共同で調査をする必要があるのではないか。
- ・ 採用支援の情報について、ハローワークなどと連携して、企業にもっと広く周知してほしい。
- ・ 仙台市奨学金支援制度の額が少ない。また、就職先の対象が中小企業のみなので、対象企業の幅を広げてほしい。
- ・ 若手（新卒）、女性が主なターゲットで、社会人男性や障害者はターゲットになっていないように見えるので、こうした層への取り組みも必要。
- ・ 仙台市が行っている取り組みの発信が不十分で、対象者に知られていないため、活用されていないように思う。仙台で働く魅力の発信が足りない。
- ・ 働く女性の活躍推進について、東京に比べ東北地方は一步遅れている印象を受ける。意識啓発やセミナー開催等の段階から次のステップに移行し、新しいアプローチ・施策が必要ではないか。



仙台市がこの事業を進めていることについて、ご存じでしたか？

※知っている、少し知っていた、知らなかったの3つから1つを選択



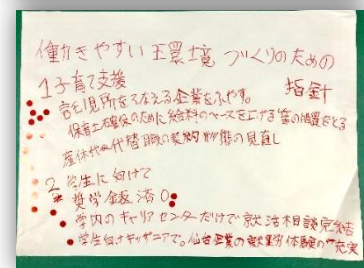
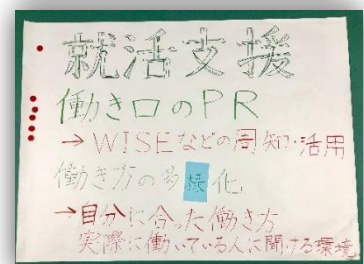
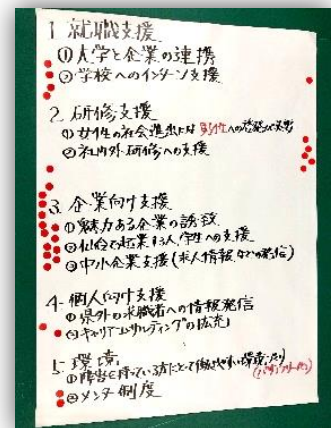
この事業は、私たちの暮らしや仙台の活力に貢献したと思いますか？

※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 17名

● 未来への提案

- 仙台での就職支援、雇用増に向けた企業への支援、働く環境の改善といったテーマで、幅広い意見が出ました。
- ・地元企業への若者定着に向け、大学と企業の連携や、中高校生のインターンシップなど就労体験を充実させる。
- ・魅力ある企業の誘致、起業への支援を充実させる。
- ・中小企業の採用情報が、求職者に届くよう支援する。
- ・既存の情報発信ツールを効果的に活用し、仙台の魅力的な企業のPRを行う。また、自分に合った働き方について、実際に働いている人に聞ける場をつくる。
- ・奨学金返還を免除するなど、地元に残る動機になるような思い切った支援を行う。
- ・高齢者や障害のある方も含め、安心して長く働ける環境づくり（人間関係、給与、研修制度、バリアフリー、産休代替スタッフへの支援など）。
- ・社内外研修への支援、メンター制度やキャリアコンサルティングを拡充する。
- ・女性の活躍推進に関する男性向けの研修支援を行う。
- ・男性も女性も働きやすい環境づくりに向けて、ハラスメント対策や、男女格差をなくす環境づくりの支援を行う。
- ・子育て支援のため、託児所併設の企業を増やし、保育士の労働環境を改善し、保育士不足を解消する。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



株式会社アフター
リクルーティング
代表取締役社長
池谷 昌之 さん

まだ就業経験のない高校生や大学生から65歳まで幅広い年齢の方、様々な立場やご経歴の18名の方と一緒に「働きやすさ」を考えることは貴重な時間となりました。ある方はご自身の生々しい体験をお話しし、学生は今自身が抱えている不安や疑問などについて語っていただきました。

制度や待遇についてだけでなく、メンター制度など人材の受け入れ体制や人間関係についても議論が上がっており、今後企業のマネジメント強化支援なども検討の余地があると感じました。

担当職員から

地元企業での人材確保や女性が働きやすい労働環境づくりなど、様々な視点から活発な意見交換が行われる中で、幅広いご意見をいただきました。

評価いただけた施策がある一方、情報発信不足などご指摘いただきました。また、働き方が多様化していく中で、多くの方々が活躍できる環境の整備、地元企業・仕事を知る機会の創出など、未来へ向けた様々なご提言をいただきました。

「仙台で働きたい!」と欲していただけ、これからも皆様のご意見に耳を傾けながら、取り組みを進めてまいります。

活力と賑わいにあふれる都心づくり

地域経済や人々の交流の中心として重要な役割を担っている都心。その活力と賑わいを創出するため、道路や公園などの公共空間、利用されていない土地や建物の利活用など、まちの魅力向上につながる取り組み事例の紹介を通して、今後の都心部におけるまちづくりについて話し合いました。

●●せんだい都心再構築プロジェクト●●

目的 杜の都・仙台にふさわしい緑豊かな都市環境と防災環境都市、これらの都市個性を深化させながら、働く場所、楽しむ場所として多くの人を集め、そこから賑わいと交流、そして持続的な経済活力が生み出され続ける躍動する都心（まち）づくりを進めるプロジェクト。

都心（まち）の将来イメージの方向性

東北を牽引するイノベーションが生まれるまち	高度な都市機能が集積し、国内外からの投資を呼び込む「多様なイノベーションが生まれ、働く場所として選ばれる都心（まち）」を目指す。
東北の交流拠点となる新たな賑わいを創り出すまち	公共空間と民有地が一体となることで生み出されるゆとりのある空間の中に、新たな賑わいや魅力を創出し、「国内外から人が集い、交流し、楽しめる都心（まち）」を目指す。
杜の都の個性が活きるまち	高い防災力と美しい環境を活かし、緑に包まれた憩いと安らぎを生む都市環境の中で、通りやエリアごとの個性が輝く、「杜の都の個性が活きる都心（まち）」を目指す。

出典：仙台市まちづくり実践塾

●●せんだい都心再構築プロジェクト●●

勾当台・定禅寺通エリア ～文化・市民活動の場～
多彩な市民活動と豊かな公共空間により日常的な賑わいを創出するエリア

仙台駅エリア ～東北の発展を牽引する仙台的顔～
東北の中枢となる商業・業務機能が集積し、東北の玄関口として広域的な交流を支えるエリア

青葉通・一番町エリア ～賑わいに満ちた出会いの場～
交差する商業・賑わい軸と地元百貨店を核とした高い集積力により「にぎわい」と「あじ」を生み出すエリア

立町・大町・肴町、本町エリア
ローカルコンテンツの集積し、各エリアを繋ぎ合わせるエリア

参考：仙台市まちづくり実践塾

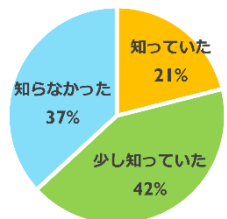
●現在の取り組みについて

- ・ 定禅寺通の歩道を活用した賑わい創出の取り組みは楽しいと思います。
- ・ あまり使われていない土地等の有効活用や、商店街の活性化など、現在のまちづくりの取り組みが市民に広まっていないと感じました。世代により情報の入手手段等も違うので、広報に工夫が必要だと思います。
- ・ 色々手探りでも前に進んでいると感じました。何を目標しているのかを分かりやすく伝えることで、まちづくりの推進力は増すと思います。
- ・ 将来を担う若者の意見に耳を傾けた方がよい。若者が集まるまちづくりを積極的に検討してほしい。
- ・ 仙台駅付近だけが発展している感じがするので、仙台市役所を中心とした賑わいの創出が課題だと思う。
- ・ 町人文化を掘り起こし、横丁的空間も残してほしい。
- ・ 杜の都ならではの、自然を活かした取り組みは良いと思う。
- ・ 都心部でも緑の素晴らしい景観があるので、もっと活用すべきだと思う。

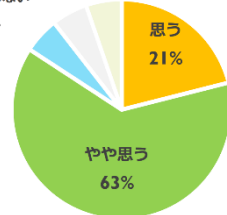


仙台市がこの事業を進めていることについて、ご存じでしたか？

※知っていた、少し知っていた、知らなかったの3つから1つを選択



わからない 5%
やや思わない 6%



この事業は、私たちのくらしや仙台の活力に貢献したと思いますか？

※思う、やや思う、やや思わない、思わない、わからないの5つから1つを選択

回答者数 19名

● 未来への提案

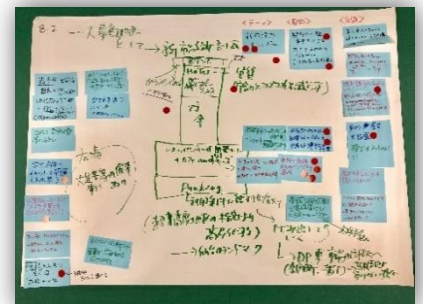
○まちの「賑わい」のイメージについて、「子どもや若者にとって居心地がよく、自然と留まるような雰囲気があるまち」という声が多く出ました。その実現に向けたまちづくりの提案として、次のような意見が出されました。

仙台駅前

- ・「仙台に来たな」と思えるシンボリックな駅前にする。
- ・駅、ペDESTリアンデッキ、地下道や周辺ビルをつなげる。
- ・屋内運動場や遊園地、文化芸術ホールなどの集客施設の設置や、屋上やビルの1階のオープンスペース化。
- ・七夕、緑豊かな街並み、地酒や屋台村で仙台商らしさを出す。
- ・外国語対応もできる案内センターを設置し観光拠点とする。
- ・子どもや若者が集まれる、学習の場や街中公園をつくる。
- ・ベンチャー企業の支援やIT企業の誘致とともに、子育てしやすい雇用環境を整え、若者に選ばれるまちをつくる。

市役所とその周辺エリア

- ・新市役所本庁舎は、子ども施設、図書コーナーや展望スペース、ショップやカフェ、オフィスなども入る、ランドマークとなる複合施設とする。
- ・勾当台公園と定禅寺通をつなげ、古本屋、学習の場、音楽イベントやリラックスできる公園があるエリアにする。
- ・西公園、青葉山エリアは、カフェやスポーツ、ミュージアム、コンサートホールなど、一体的な賑わいづくりを行う。
- ・地下鉄やJR、バスのつながり、ループバスの運行など、公共交通を使いやすくする。定禅寺通を歩行者天国にしたり、自転車の利用しやすい環境をつくる。



● 話し合いを終えて

ファシリテーターから



特定非営利活動法人
まちづくりスポット
仙台 ディレクター

岩間 友希 さん

活力・賑わい・都心という幅広いテーマのため、活力とは何か、賑わっているとはどんな風景かなど、具体的なイメージが湧くよう問いかけながら進行了ました。

世代・ご出身地を問わず、「未来がある子どもたちや、若者が暮らし続けたい都心が良い」という方向性で一致したことが印象的で、その中でも、都市のシンボルと捉えられている2つのエリアが改めて浮き彫りになりました。現在の取り組みについても盛んに議論があり、こうした機会の重要性を感じました。

担当職員から

都心の「活力と賑わい」という捉えづらいテーマでしたが、テーブルごとに「仙台駅前」「市役所周辺」「回遊性」という独自の小テーマを設け、「駅前の大型商業施設跡地を仙台商らしいシンボリックな場所にしたい」、「市役所を若い人や子どもも自然と訪れられる場所にしたい」「街全体が公園のような回遊型のまちにしたい」などのわくわくする楽しいアイデアを提案していただきました。

頂戴したご意見を参考にさせていただき、都心のまちづくりを推進してまいりたいと思います。

6. 参加者アンケートより

- ・仙台市の取り組みを初めて知ることができ、色々な人の意見を聞いて交流できるとても良い機会でした。仙台市民として改めて仙台について考えるとても良い機会となりました。
- ・同じテーマに対して多様な考え方があるということを知ることができ、様々な角度から考えることができたと思います。また、仙台のことを真剣に見つめ直したことで、さらに仙台に愛着がわきました。
- ・自分の参加したテーマだけでなく他のテーマについても考える機会になったので良かったです。
- ・世代によってかなり考え方が違うことが分かったので、そこをどう埋めるかが重要なと思いました。
- ・大都市であるがゆえ、市民ひとりの意見、考える事は、無意味だろうと思っていたが、あながち、そうでもないと感じた。ひとりひとりが主体になっている実感を得る事が重要です。
- ・高校生、大学生、障害を持っている方、色々な立場の方の生の声が聞けてよかったと思います。外国人の参加者をもっと多く入れてもらいたいです。
- ・仙台の未来…未来は子どもが作る。子どもがすばらしい未来を夢見られる仙台にするのが大人の役割。子どもを中心に考える社会であればと思う。
- ・若い世代が世代間の分断を強く感じていることがわかり、新鮮でした。この課題を解決することが、今の若い世代、そしてミドルの役割かと思います。
- ・色々なテーマがあり、どれも魅力的。市民がみんな興味を持って参加しやすい機会があれば、行動を起こすスピードは増していくのではないかと思います。
- ・今日のフォーラムで良い意見がたくさん出たと思うので、全部実現するのは難しいと思いますが、出た意見を参考に市（行政）、企業、市民が一体となって仙台をより魅力あふれるまちにしていけたら良いと思います。
- ・もっともっと深く話し合うためには時間が足りなかったですね。しかし、このように市民の意見を聞く機会をつくったことは評価できると思います。政策を立てる前に市民の意見をちゃんと聞くことが大切かと思っています。

